

会うハーモニー

の建立一周年記念に、歌お披露目



「コーラスライオット風」の17回定期コンサートで交流を深める皆さん

村と隣接する野田村、田野畑村との3村の合唱団グループが交流する「コーラスライオット風（森田眞奈子代表）」の17回定期コンサートが10月8日、村自然休養村管理センターで開かれました。昨年10月、まついそ公園に建立した宮沢賢治の詩碑の一周年記念にと「敗れし少年の歌へる」の歌を初めて披露。作曲した賢治愛好家の医師浜垣誠司さん(44)「東京都市」も駆け付け、賢治と出会う交流のハーモニーを響かせました。

賢治の足跡を詩碑に

コンサートはライオット風の女性20人のほか、盛岡市の混声合唱団北声会の約30人と普代中学生や教員らが出演。5部構成で童謡から黒人霊歌など約20曲を発表しました。増田知事夫妻も訪れ、コンサートを鑑賞しました。

コンサートで披露した「敗れし少年の歌へる」は、「賢治と語る普代会（金子功代表、会員13人）」が、堀内漁港まついそ公園に昨年10月、詩碑を設置したことをきっかけに作曲され、今回のコンサートはその一周年記念も兼ねて開かれました。藤島勝巳さん（白井）が詩を朗読したほか、澤口ヨシさん（上区）が幼少

時の父と賢治との思い出を作文で紹介。ライオット風が歌を初披露しました。

詩碑の建立は、賢治が大正14（1925）年に北三陸地方を旅した際、村にも立ち寄っていて、皆さんに知られていない村と賢治の関係に光を当て、語り継ぐことが目的でした。詩碑は縦80センチ、横120センチ。前面には詩のほか賢治とフクロウの模写、裏面には同会がいう「賢治 濱善丸で南へ」と彫られています。除幕式は昨年10月17日、まついそ公園で行われ、ライオット風が「星めぐりの歌」など賢治の歌曲を歌い、碑にさげました。